



8月号

令和2年7月27日

横浜市立 星川 小学校

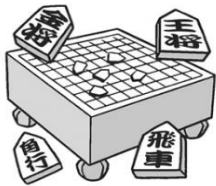
校長 小西 俊光

TEL.332-2101 FAX.331-5052

WEB ページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/hoshikawa/>

新棋聖 藤井聡太さんから学ぶ「探究心」

学校長 小西 俊光



7月16日(木)、将棋の高校生棋士、藤井聡太七段が「棋聖戦五番勝負」で渡辺 明 棋聖を破り、史上最年少で初タイトルを獲得したというニュースが流れました。「中学生棋士 藤井聡太四段が公式戦 29 連勝を達成」のニュースが流れてからわずか3年でタイトルを獲得したことになります。藤井聡太さんの強さについて、日本将棋連盟会長 佐藤康光九段は産経新聞の中で次のように述べています。

「(前略) ……藤井さんの強さは読みの量と精度で、今までの棋士にはない感じがします。若いときは経験が少ないので読みの量でカバーすることがあります。しかし、他の棋士たちと比較して、読みの量や精度がすごいと思います。将棋では、あえて踏み込まない、読んでも指さないことがあります。藤井さんはよく読んで決断している感じがします。… (後略)」

(令和2年7月18日 産経新聞 第27面の記事より抜粋)

藤井さんの強さである「読みの量と精度」、すなわち「先の局面を正確に、そしてさらに遠くの局面まで頭に描ける力」はどのように育まれてきたのでしょうか。ある記事には、小学生のころから取り組んできた「詰め将棋」が藤井さんの強さの原点であるということが書かれていました。詰め将棋を解く速さと正確さを競う「詰将棋解答選手権」の最上級「チャンピオン戦」で平成27年に小学6年生で初優勝し、以来、毎年優勝しているそうです。(令和2年度は不開催)

藤井さんの強さのもう一つの秘密は「将棋への探究心の深さ」ではないでしょうか。藤井さんは他の若い棋士と同じように将棋ソフトでの研究をしています。「ソフトで研究をしても最後は自分で考えることが大事。」とさらによい一手を求めています。また、藤井さんは、感想戦も大切にしています。感想戦というのは、投了後にお互いが対局を振り返って感想を述べ合うことで、それぞれの場面で自分が何を考えていたのかを語り合い、よりよい一手があったのかを共に探究する時間です。感想戦には時間がなく、敗者が納得するまで続けるのが常だそうです。藤井さんもこれまで敗戦をするたびに、感想戦を通して、よりよい一手を考え、自分のものにしていったのだと思います。「将棋は難しく、この立場にたってもまだまだ分からないことばかり。探究心をもって盤上に向かいたい。」とタイトル獲得翌日のインタビューに答える藤井さん。こうした探究心がある限り、藤井さんはこれからも成長し続け、歴史に残る棋士になるのではないのでしょうか。

藤井さんが5歳のときに祖母に将棋を教わったことが将棋に夢中になるきっかけだったそうです。夢中になるものに出会うことが探究心を湧き立たせ、人を成長させるのだと思います。今年の夏休みは例年よりも短いですが、星の子たちにもこの機会を利用して、夢中になれるものを見つけたいと思います。

健康観察票の継続について

8月1日より夏休みが始まりますが、夏休み中も健康観察票へ体温等の記入を宜しくお願いいたします。夏休み明けの8月17日には、お子さんに8月健康観察票を忘れずに持たせてください。宜しくお願いいたします。